

俳句

たかはしひょうひょうし

高橋飄々子



防府市

(1915～1963)

高橋飄々子は、俳人。佐波郡防府町（現・防府市）生まれ。本名、孝太郎。昭和二十三年十月、俳誌『嵐』を主宰・創刊。入退院を繰り返す闘病生活の中で、「リリズムとロマンスの統一の上に立つ象徴俳句の希求」を主張し続けた。昭和三十一年の山口県俳句作家協会創立に尽力し、第二号・第三号『山口県俳句年鑑』の編集・発行にも携わるなど、県俳壇振興に貢献。昭和三十八年七月没。享年四十八。「俳句の鬼」として燃えつきた。県俳壇に新風を送り続けた俳誌『嵐』は、同年九月、同人らが追悼号を出して廃刊になった。遺句集『嵐』がある。

（森川信夫）

【主な著作】

句集『嵐』

（高橋飄々子遺句抄刊行会、昭和39年）